

# U.S. Indicators

発表日：2018年12月3日(月)

## 米国 18年11月ISM製造業景気指数

～世界的な景気鈍化のもと米製造業は好調さを維持～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

### ISM製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
17/11	58.2	63.9	64.3	59.2	47.1	56.6	54.3	64.8	56.3	54.3
17/12	59.3	67.4	65.2	58.1	48.5	57.2	54.9	68.3	57.6	56.5
18/01	59.1	65.4	64.5	54.2	52.3	59.1	56.2	72.7	59.8	58.4
18/02	60.8	64.2	62.0	59.7	56.7	61.1	59.8	74.2	62.8	60.5
18/03	59.3	61.9	61.0	57.3	55.5	60.6	59.8	78.1	58.7	59.7
18/04	57.3	61.2	57.2	54.2	52.9	61.1	62.0	79.3	57.7	57.8
18/05	58.7	63.7	61.5	56.3	50.2	62.0	63.5	79.5	55.6	54.1
18/06	60.2	63.5	62.3	56.0	50.8	68.2	60.1	76.8	56.3	59.0
18/07	58.1	60.2	58.5	56.5	53.3	62.1	54.7	73.2	55.3	54.7
18/08	61.3	65.1	63.3	58.5	55.4	64.5	57.5	72.1	55.2	53.9
18/09	59.8	61.8	63.9	58.8	53.3	61.1	55.7	66.9	56.0	54.5
18/10	57.7	57.4	59.9	56.8	50.7	63.8	55.8	71.6	52.2	54.3
18/11	59.3	62.1	60.6	58.4	52.9	62.5	56.4	60.7	52.2	53.6

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

18年11月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、59.3と前月比1.6%ポイント上昇し、高水準を維持した。世界需要の拡大ペース鈍化のほか、米国の鉄鋼・アルミニウムへの関税賦課、それに伴う各国の対抗措置、米中貿易戦争による関税賦課、人手不足などの悪影響を受けるなかでも、米国内需要の堅調さを背景に、総合指数、新規受注、生産が高い水準で推移しており、米国製造業部門は好調さを維持していると判断される。

総合指数を構成する項目では、入荷遅延が低下した一方、新規受注、生産、雇用、在庫が上昇した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、入荷遅延(前月比▲0.26%p)が押し下げ寄与となった一方、新規受注(前月比+0.94%p)、在庫(前月比+0.44%p)、雇用(前月比+0.32%p)、生産(前月比+0.14%p)が押し上げ寄与となった。

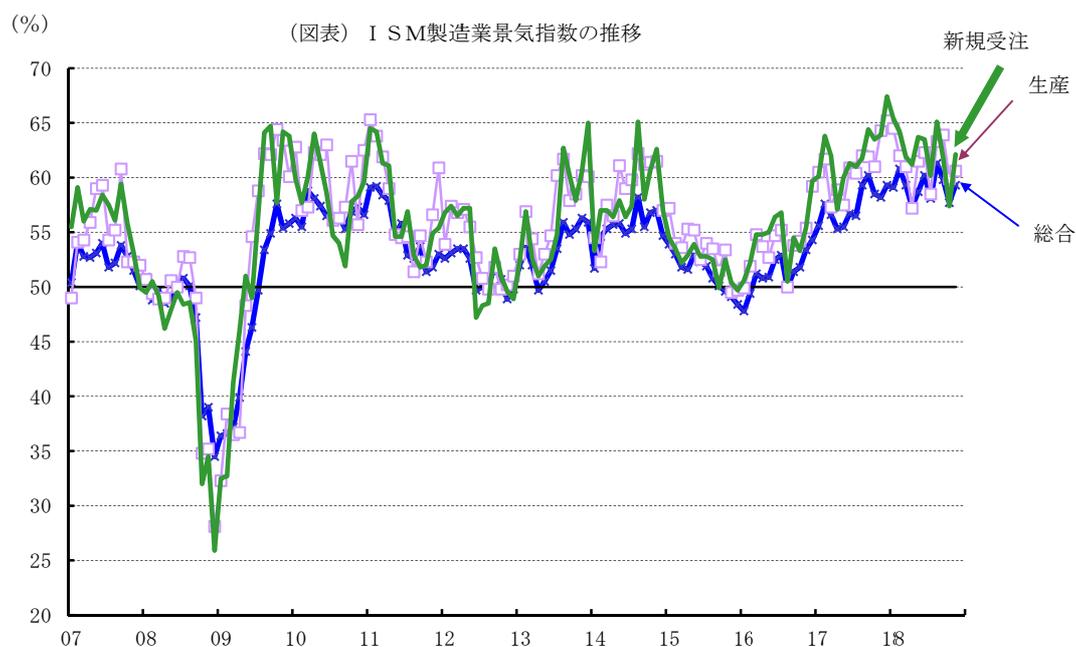
人手不足、悪天候、貿易戦争等で入荷遅延が高水準で推移しているものの、重要項目である新規受注や生産が内需の堅調さを映じて高い水準で推移しており、製造業部門が当面良好な状態を維持することを示唆している。

一方、インフレ面では、新規受注や生産の高い水準での拡大傾向、入荷遅延や輸入制限導入などを受け仕入価格は高い水準にとどまっているものの、前月から大幅に低下した。ドル高やエネルギー価格の下落によりインフレ圧力の強まりに歯止めがかかりつつある。

総合(全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す)で拡大した業種は、コンピューター・電子機器、プラスチック・ゴム、紙製品、繊維、電気設備・部品、その他製造業、一般機械、輸送機器、化学製品、食品・飲料・タバコ、アパレル、家具・同関連、石油・石炭の13業種と前月の13業種から変わらず、依然多くの業種で拡大している。企業からの報告では、引き続き米国の鉄鋼・ア

ルミニウムへの関税賦課、米中貿易戦争、人手不足などの悪影響・懸念が指摘されており、継続して圧力となっているものの、製造業は広がりを持った拡大を続けている。縮小した業種は、印刷・関連サポート活動、一次金属、非鉄の3業種と前月の4業種から減少した。木材製品、加工金属は変わらず。

19年半ばにかけて、貿易戦争の継続、人手不足の一段の強まり等によるコストの上昇、EUや日本との通商交渉の不透明感、中国経済の構造変化に伴う中期的な成長鈍化など、需要の伸びを抑制する要因が残存すると予想される。しかし、減税や歳出の拡大を背景に、雇用・所得・保有資産残高の増加等による個人消費の拡大が見込まれる。また、コスト削減などのための効率化投資のほか、米国での生産能力拡大投資などを背景に、設備投資が堅調な拡大ペースを取り戻すと予想される。さらに、海外需要は拡大モメンタムのピークアウトも先進国での緩やかな金融環境や改善の続く内需に支えられ拡大基調を維持しよう。これらを勘案すると、米景気は19年半ばにかけて好調さを維持するとみられる。このため、ISM製造業景気指数は、米景気の堅調さを示す比較的高い水準で当面推移すると予想される。



(出所) ISMデータより作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。